

大会派遣・研修報告書	
1. 大会・研修会名	全国中学校体育大会バスケットボール競技
2. 研修期間	2019年8月21日(水)～25日(日)
3. 派遣者	松永雄平(佐世保)
4. 日程	21日(水) 佐世保～和歌山 移動 22日(木) 審判研修会・審判会議・レセプション 23日(金) 大会1日目：予選リーグ 24日(土) 大会2日目：決勝トーナメント 25日(日) 大会3日目：準決勝・決勝 和歌山～佐世保 移動
5. 研修概要	<p>■研修会テーマ 「処置ミスゼロの3PO メカニクスの実践」 ～ベーシックの確認と徹底、情報共有の重要性に着目して～</p> <p>研修1 研修会内容・研修テーマ設定の意図(福岡氏) グループディスカッション</p> <p>研修2 3PO Mechanics とプレーコーリングガイドライン(小島氏/尾形氏)</p> <p>研修3 処置ミスゼロにつながるIOT と TO の連携(宇田津氏/橋本氏)</p> <p>研修4 インテグリティと審判(宇田川氏)</p>
6. 研修内容	<p>■審判研修会</p> <p>◎鹿児島インターハイより「共創」 みんなでゲームをつくる そのために… ①CC メンタリティの発揮(自分の意見を持つ) ②権威勾配はなくす(コートに立ったらライセンスは関係なし)</p> <p>○今の時代の審判員…注目される(メディア・SNS 含む) 審判員の重大ミス→速やかな報告が必要 例) 得点の加点ミス、与えるべきフリースローを与えていない 【処置ミスゼロを目指して】</p> <p>①PGC を大切に ・クルーでのミーティング ・TO とのミーティング</p> <p>②3PO メカニクス/IOT ・Basic を徹底することが判定につながる ・クルーワークを大切にする</p> <p>○3PO/IOT ・リードがローテーションすべき/中断すべきケースなど 映像による PGC を実施してほしい ・クロスコールはしない</p> <p>○プレーコーリング・ガイドライン</p> <p>①マージナルコンタクト マージナルとイリーガル、ノーファウルを区別する</p> <p>②POC (Point Of Contact) 身体の中のどの部分のコンタクトがファウルだったのか</p> <p>③TF 他のファウルと同じように扱う。(RFG の観点も)</p> <p>④FOM (Freedom Of Movement)</p> <p>⑤Referee Defense</p> <p>⑥プロテクト・シューター</p>

【TF をコールするときの確認点】

- ①Ball status：ボールステータスの確認
- ②Fit：その場面にフィットしているか
- ③Effective：ゲームにおいて目的・効果のあるコールだったか
- ④Defendable：理由を持ち、説明できるものであるか

○処置ミスゼロに向けて

《起こりうるミスの種類》

- ・同時刻入退場
- ・タイムアウト
- ・No コールミス
- ・ゲームクロック
- ・14 秒 or 24 秒
- ・交代・選手の数
- ・アクシデント
- ・ファウルの数
- ・3or2
- ・ショットクロックリセット
- ・フリースローシューター
- 等

◆処置ミスに繋がらないために

Care and cure (予防と解決策)

[今持っている情報を集めて、正しい判定(処置)を導く]

- ①気づく《クロックを見る習慣・TO を見る習慣》
- ②声を出す《周知することで予防》
- ③確認《確認してOK サイン》

◆抑えておくべき3つの要素

- ①ルール：当然知っていること/正しい処置のために
- ②メカニクス：役割分担/その責任は？
- ③プレゲーム：アシスト/コミュニケーション

◆ケース学習

例1) ショットクロックリセット/継続

- ・リングに当たったか当たってないか
- ・コントロールはあったか
- ・ブロックショットはどうだったか
- ・ゲームを止めたときに不利にならない状況かどうか

→このようなことを踏まえてリセットかどうかを決めるが…

特に【TOが見えにくい・判断しづらい場合】にどうするか

- ・(その状況に)気づく → ・確認する → ・再開方法を決める

例2) フリースローシューターの確認

- ・誰が?誰に?いつ?(AOS)ファウルをしたか
(特に吹いた審判しかわからないケースは注意!)

《ミスを防ぐために》

- ・声を出す
- ・(ちがうことに)気づく
- ・確認する

○TO との連携

《TO の役割》

管理・記録・表示・計測 などたくさんのことがある

→TO 相互、審判クルーとの協力が不可欠

- ・スコアラー…ファウルコールは目を合わせてから行う。
- ・タイマー…全ての準備ができてから手が挙がる。
- ・ショットクロック…保持があったか?なかったか?リングに当たった?
- ・ブザー…タイムアウトや交代

→審判が把握をし、確認することで、未然にミスを防ぐ

《トラブルを防ぐために大切なこと》TO を信頼する!!

※機材の把握や TO との打ち合わせはもちろん十分に行う。

○インテグリティについて

「今の社会、これからの社会」でどうすべきか

インテグリティ：誠実さ・真摯さ・高潔さ

なぜ必要か：バスケットボールの価値を高めるため

魅力ある試合を提供し、バスケットの楽しさ面白さを発信

→一般の方をバスケットボールファミリーに

→バスケットボールを日本のメジャースポーツへ

→昭和の野球、平成のサッカー、令和のバスケット

《JBA 方針》人間力を高める・指導力を高める・組織力を高める

■割当

8月23日(金)

女子Iリーグ 9:30～

紀ノ川(開催地・和歌山) 対 下妻(関東3・茨城)

CC 松永雄平

U1 佐竹俊春(高知)

U2 桑本大貴(鳥取)

女子Pリーグ 13:30～

近江兄弟社(近畿3・滋賀) 対 メリノール(東海1・三重)

CC 松永雄平

U1 林原潤(千葉)

U2 岩瀬寛明(香川)

8月24日(土)

男子決勝トーナメント2回戦 16:30～

東海大菅生(関東・東京) 対 実践学園(関東・東京)

CC 尾形美樹(長野)

U1 松永雄平

U2 工藤央弥(秋田)

■IGR《東海大菅生(関東・東京) 対 実践学園(関東・東京)》

◆Foul log

Time	Team	No	T/C/L	Ref	Type	
(1)6:30	Z	5	C	CC	Push	POC : Hit?
6:24	Z	5	C	U1	Block	
5:31	Z	6	C	U1	Block	No call
5:06	Z	8	L	CC	Push	
2:10	Z	9	T	U1	Block	Illegal screen
1:50	T	8	L	CC	Hit	
1:43	Z	5	L	CC	Block	
56.1	T	10	T	U1	Push	
(2)7:22	T	8	T	CC	Push	
5:49	Z	9	C	U2	Push	
5:26	Z	4	T	U2	Block	
3:19	T	8	C	U1	Push	
3:04	T	7	L	CC	Hit	
2:31	T	7	C	U2	Hit	
1:35	Z	6	T	U1	Block	No call

58.0	Z	9	T	CC	Hold	Off ball : uniform
26.0	T	7			Block	No call
(3) 7:36	T	7	C	U1	Push	Foul or 24sec.
6:41	Z	6	C	U1	hit	No call
6:21				U2		OOB help
6:09	T	8	C	U1	Hit	
4:40	T	5	L	CC	Block	
4:23	T	4	C	U2	Hold	Not UF(C3)
4:05	T	5	L	CC	Flop	Warning
3:53	Z	5	C	U1	Hand Check	
3:41	T	7	C	U1	Block	
3:30				CC		OOB correct
2:28	T	7	C	U1	Hit	
28.9			T	U1		Injured
16.5	Z	4	T	U1	Push	
(4) 7:26	T	6	T	CC	Block	No call
6:49	T	10	T	CC	Block	
6:47	T	7	L	U2	Push	
6:40	Z	6	L	U2	Block	
5:33	T	7	T	CC	Hand Check	
4:34			T	CC		Injured
3:56	T	15	C	U2	Hit	
3:24	T	4	C	U2	Hit	
1:30	T	10	T	U1	Block	No call
30.0	T	18	L	CC	Hit	
14.9	T	4	T	CC	Hold	
6.2	T	4	C	U2	Charge	

◆自己分析

[1]負傷による中断

負傷による中断が2回あったが、ゲームを止めるタイミングが課題となった。外傷部の大まかな確認(頭部外傷の場合はすぐに止める)

→ ボールステータスの確認 → 適切なタイミングで止める

[2]LGP がとれておらずコンタクトが起こるケース

特にドライブに対し、LGP が取れておらずコンタクトが起こるケースが多くあった。特にトレイルとセンターからの判定が必要な場面が見られた。レフェリーディフェンスをより意識することが必要。

[3]プレゼンテーション

大きく見せる工夫と「デリバリーカ」

より説得力があるプレゼンテーションを心がける。また、判定や起こったこと(クロックの修正やファウルの確認等も含む)を会場全体にわかるように伝えるプレゼンテーションを心がける。

7. 所感

インターハイ、九州中学に引き続き派遣をいただきました。

インテグリティに関しては、バスケットボールの価値向上のために、立場に関係なくバスケットボールファミリー全体で取り組まなければいけないと感じました。審判は、ゲームのためにより緻密な準備をし、ゲーム後は客観的に分析を行っています。また、映像や資料がすぐに手に入り、環境に関係なく情報共有ができる時代となっています。県内でも、各地区まで浸透できればと思います。派遣いただきありがとうございました。

